

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
統計学1	2	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1 <ul style="list-style-type: none"> ・ビッグデータ、IoT、AI「マルチメディア論」(10, 11, 12回目) ・第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会「マルチメディア論」(7回目) ・複数技術を組み合わせたAIサービス「マルチメディア論」(10, 11, 12回目) ・人間の知的活動とAIの関係性「マルチメディア論」(11回目)
	1-6 <ul style="list-style-type: none"> ・AI等を活用した新しいビジネスモデル「マルチメディア論」(12回目) ・AI最新技術の活用例(深層生成モデル)「マルチメディア論」(11回目)
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2 <ul style="list-style-type: none"> ・構造化データ、非構造化データ(文章、画像/動画、音声/音楽など)「マルチメディア論」(3,4,5,6回目) ・社会で活用されているデータ:「統計学1」(1回目)
	1-3 <ul style="list-style-type: none"> ・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)「マルチメディア論」(3,4,5,7,12回目) ・研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスなど「マルチメディア論」(11,12,13回目)
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4 <ul style="list-style-type: none"> ・非構造化データ処理: 言語処理、画像/動画処理、音声/音楽処理など「マルチメディア論」(3,4,5,6回目) ・今のAIで出来ることと出来ないこと、AIとビッグデータ「マルチメディア論」(11回目) ・認識技術「マルチメディア論」(4,5回目)
	1-5 <ul style="list-style-type: none"> ・流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI利活用事例紹介「マルチメディア論」(12回目)

(4) 活用に当たった様々な留意事項 (ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	・データ倫理: データのねつ造、改ざん、盗用「マルチメディア論」(11回目) ・AI社会原則(公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断)「マルチメディア論」(11回目) ・AIサービスの責任論「マルチメディア論」(11, 12回目) ・データ・AI活用における負の事例紹介「マルチメディア論」(11回目)
	3-2	・暗号化「マルチメディア論」(10回目)
(5) 実データ・実課題 (学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	・データの種類、分布、基本統計量とその性質、データの解釈: 「統計学1」(2,3,4,5,8回目)
	2-2	・データの表現方法、比較方法、可視化: 「統計学1」(4,5回目)
	2-3	・基本統計量の算出、標準化や可視化による分析、回帰分析、相関分析: 「統計学1」(2,3,4,5,6,7,8回目)□

⑩ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

- 1: 社会で活用されているデータを知り、記述統計の考え方や基本的な手法を利用し、データを読み、データを説明し、適切に扱うことができる。
- 2: デジタル化技術について説明できる。
- 3: 人工知能などのデジタルデータを活用する新たな技術について説明できる。
- 4: デジタル技術やそれを活用する新技術により社会がどのように変化したか説明できる。

【参考】

⑫ 生成AIに関連する授業内容 ※該当がある場合に記載

教育プログラムを構成する科目に、「数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラム改訂版」(2024年2月 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム)において追加された生成AIに関連するスキルセットの内容を含む授業(授業内で活用事例などを取り上げる、実際に使用してみるなど)がある場合に、どの科目でどのような授業をどのように実施しているかを記載してください。

※本項目は各大学の実践例を参考に伺うものであり、認定要件とはなりません。

講義内容
「マルチメディア論」の人工知能に関する授業(11回目)の中で、画像生成AIの拡散モデル(Diffusion Model)について解説する。また、画像生成AI利用に際して生じる著作権の問題についても解説する。

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
数理・データサイエンス・AI入門	2	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1 <ul style="list-style-type: none"> ・ビッグデータ、IoT、AI、ロボット「数理・データサイエンス・AI入門」(第1回) ・計算機の処理性能の向上「数理・データサイエンス・AI入門」(第1回) ・第4次産業革命「数理・データサイエンス・AI入門」(第1回) ・人間の知的活動とAIの関係性「数理・データサイエンス・AI入門」(第1回)
	1-6 <ul style="list-style-type: none"> ・AI等を活用した新しいビジネスモデル(シェアリングエコノミー、商品のレコメンデーション)「数理・データサイエンス・AI入門」(第7回) ・AI最新技術の活用例(敵対的生成ネットワーク、強化学習、転移学習)「数理・データサイエンス・AI入門」(第7回)
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2 <ul style="list-style-type: none"> ・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど「数理・データサイエンス・AI入門」(第2回) ・1次データ、2次データ、データのメタ化「数理・データサイエンス・AI入門」(第2回) ・構造化データ、非構造化データ(文章、画像/動画、音声/音楽など)「数理・データサイエンス・AI入門」(第2回) ・データ作成(ビッグデータとアノテーション)「数理・データサイエンス・AI入門」(第2回) ・データのオープン化(オープンデータ)「数理・データサイエンス・AI入門」(第2回)
	1-3 <ul style="list-style-type: none"> ・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)「数理・データサイエンス・AI入門」(第3回) ・研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスなど「数理・データサイエンス・AI入門」(第3回) ・仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替、新規生成など「数理・データサイエンス・AI入門」(第3回)
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4 <ul style="list-style-type: none"> ・データ解析: 予測、グルーピング、パターン発見「数理・データサイエンス・AI入門」(第4回) ・データ解析: 最適化、シミュレーション「数理・データサイエンス・AI入門」(第5回) ・データ可視化: 複合グラフ、2軸グラフ、多次元の可視化、関係性の可視化、地図上の可視化「数理・データサイエンス・AI入門」(第5回) ・非構造化データ処理: 言語処理、画像/動画処理、音声/音楽処理など「数理・データサイエンス・AI入門」(第5回) ・特化型AIと汎用AI、今のAIで出来ることと出来ないこと、AIとビッグデータ「数理・データサイエンス・AI入門」(第6回)
	1-5 <ul style="list-style-type: none"> ・データサイエンスのサイクル(課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工、探索的データ解析、データ解析と推論、結果の共有・伝達、課題解決に向けた提案)「数理・データサイエンス・AI入門」(第7回)

(4) 活用に当たった様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	<ul style="list-style-type: none"> • ELSI(Ethical, Legal and Social Issues)「数理・データサイエンス・AI入門」(第13回) • 個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)、忘れられる権利「数理・データサイエンス・AI入門」(第13回) • AI社会原則(公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断)「数理・データサイエンス・AI入門」(第13回) • データバイアス、アルゴリズムバイアス「数理・データサイエンス・AI入門」(第14回) • データ・AI活用における負の事例紹介「数理・データサイエンス・AI入門」(第14回)
	3-2	<ul style="list-style-type: none"> • 情報セキュリティ:機密性、完全性、可用性「数理・データサイエンス・AI入門」(第15回) • 匿名加工情報、暗号化、悪意ある情報搾取「数理・データサイエンス・AI入門」(第15回) • 情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介「数理・データサイエンス・AI入門」(第15回)
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	<ul style="list-style-type: none"> • データの種類(量的変数、質的変数)「数理・データサイエンス・AI入門」(第8回) • データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)「数理・データサイエンス・AI入門」(第8回) • 代表値の性質の違い(実社会では平均値≠最頻値でないことが多い)「数理・データサイエンス・AI入門」(第8回) • データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)「数理・データサイエンス・AI入門」(第8回) • 観測データに含まれる誤差の扱い「数理・データサイエンス・AI入門」(第8回) • 打ち切りや脱落を含むデータ、層別の必要なデータ「数理・データサイエンス・AI入門」(第8回) • 相関と因果(相関係数、擬似相関、交絡)「数理・データサイエンス・AI入門」(第9回) • 母集団と標本抽出(全数調査、単純無作為抽出、層別抽出、多段抽出)「数理・データサイエンス・AI入門」(第9回) • クロス集計表、分割表、相関係数行列、散布図行列「数理・データサイエンス・AI入門」(第9回) • 統計情報の正しい理解(誇張表現に惑わされない)「数理・データサイエンス・AI入門」(第9回)
	2-2	<ul style="list-style-type: none"> • データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ)「数理・データサイエンス・AI入門」(第10回) • データの図表表現(チャート化)「数理・データサイエンス・AI入門」(第10回) • データの比較(条件をそろえた比較、処理の前後での比較、A/Bテスト)「数理・データサイエンス・AI入門」(第10回) • 不適切なグラフ表現(チャートジャンク、不必要な視覚的要素)「数理・データサイエンス・AI入門」(第10回) • 優れた可視化事例の紹介(可視化することによって新たな気づきがあった事例など)「数理・データサイエンス・AI入門」(第10回)
	2-3	<ul style="list-style-type: none"> • データの集計(和、平均)「数理・データサイエンス・AI入門」(第11回、第12回) • データの並び替え、ランキング「数理・データサイエンス・AI入門」(第11回、第12回) • データ解析ツール(スプレッドシート)「数理・データサイエンス・AI入門」(第11回、第12回) • 表形式のデータ(csv)「数理・データサイエンス・AI入門」(第11回、第12回)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

- 1: データ・AI活用領域の広がり理解し、データ・AIを活用する価値を説明することができる。
- 2: 文献や現象を読み解き、それらの関係を分析・考察し表現することができる。
- 3: データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理について説明することができる。

【参考】

⑫ 生成AIに関連する授業内容 ※該当がある場合に記載

教育プログラムを構成する科目に、「数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラム改訂版」(2024年2月 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム)において追加された生成AIに関連するスキルセットの内容を含む授業(授業内で活用事例などを取り上げる、実際に使用してみるなど)がある場合に、どの科目でどのような授業をどのように実施しているかを記載してください。

※本項目は各大学の実践例を参考に何うものであり、認定要件とはなりません。

講義内容

プログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度 年度

②大学等全体の男女別学生数 男性 人 女性 人 (合計 人)

③履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学定員	収容定員	令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		令和元年度		平成30年度		履修者数合計	履修率
				履修者数	修了者数	履修者数	修了者数										
経済情報学部	948	200	800	183												183	23%
芸術文化学部	451	100	400	34	32											34	9%
合計	1,399	300	1,200	217	32	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	217	18%

大学等名

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 (常勤) 人 (非常勤) 人

② プログラムの授業を教えている教員数 人

③ プログラムの運営責任者
 (責任者名) (役職名)

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

 (責任者名) (役職名)

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

⑥ 体制の目的

⑦ 具体的な構成員

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和5年度実績	18%	令和6年度予定	40%	令和7年度予定	60%
令和8年度予定	70%	令和9年度予定	80%	収容定員(名)	1,200

具体的な計画

経済情報学部の対象科目「統計学Ⅰ」と「マルチメディア論」は、それぞれ履修年次が「統計学Ⅰ」は1年次、「マルチメディア論」は2年次である。2科目とも経済情報学部専門教育科目であり、従来より履修者数が多い科目である。令和5年度からプログラムが始まり、令和6年度以降はプログラム対象科目を履修できる学年が順次増えていくことから、履修者数・履修率の向上が期待できる。

教養教育科目「数理・データサイエンス・AI入門」は週4コマ開講し他の科目と重複して履修できないことが無いように配慮している。令和5年度の新規開講科目のため、1年生しか履修できない科目であった。履修モデルにも記載し、芸術文化学部学生の履修を促していること、令和6年度以降はプログラム対象科目を履修できる学年が順次増えていくことから、履修者数・履修率の向上が期待できる。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

経済情報学部は既存の専門教育科目をプログラム構成科目に設定。「統計学Ⅰ」は従来より履修者数が多いため、担当教員は2名体制とし、週に2クラス開講している。

令和5年度に教養教育科目「数理・データサイエンス・AI入門」を新規開講した。教養教育科目のため全学生が履修できるようにしているが、経済情報学部の学生に比べて情報関連科目に興味薄い芸術文化学部の学生が履修しやすい環境を整えた。週に合計4コマを開講し、別の授業との重複で履修できないことが無いように時間割を編成している。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

- ・プログラム対象学年には年度始めの学生向けオリエンテーションでプログラム内容の周知
- ・学生便覧へのプログラム内容掲載
- ・各学科の履修モデルにプログラム対象科目を追加
- ・2回生後期開講の「マルチメディア論」の開講時間を変更し、別の授業との重複しないように時間割を編成し履修しやすい環境を整えた。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

本教育プログラムのうち、「統計学Ⅰ」と「マルチメディア論」は経済情報学部の専門科目となっており、経済情報学部の常勤教員が担当し、授業外でも質問、相談が出来る体制となっている。

「数理・データサイエンス・AI入門」(教養教育科目)においては、主な履修者が芸術文化学部の学生となり日頃情報機器の操作をあまり行っていないことを考慮し、本学経済情報学部の情報コースに在籍する学生をSAとして各コマに配置し、授業内での実習や機器の操作などのサポートを行っている。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

本教育プログラムのうち、「統計学Ⅰ」と「マルチメディア論」は経済情報学部の専門科目となっており、経済情報学部の常勤教員が担当し、授業外でも質問、相談が出来る体制となっている。

「数理・データサイエンス・AI入門」(教養教育科目)においては、主な履修者が芸術文化学部の学生となり日頃情報機器の操作をあまり行っていないことを考慮し、本学経済情報学部の情報コースに在籍する学生をSAとして各コマに配置し、授業内での演習や機器の操作などのサポートを行っている。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

尾道市立大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム専門部会

(責任者名) 井本 伸

(役職名) 部会長(教務委員長)

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>経済情報学部は専門教育科目「統計学Ⅰ」(1年次後期)と専門教育科目「マルチメディア論」(2年次後期)の2科目、芸術文化学部は教養教育科目「数理・データサイエンス・AI入門」(1年次後期)の1科目で本プログラムを構成している。「数理・データサイエンス・AI入門」は令和5年度新規開講科目である。</p> <p>経済情報学部はプログラム履修科目が複数年次で開講されているため、令和5年度の修了者はまだいない。芸術文化学部は履修者の94%(履修36名のうち修得34名)が修得した。プログラムの履修者は経済情報学部が22.9%、芸術文化学部は8.5%となっている。新入生オリエンテーションでの周知だけでなく、在学生オリエンテーションでも引き続き履修を強く推奨していく予定である。</p>
学修成果	<p>経済情報学部構成科目のうち「統計学Ⅰ」は履修者184名のうち85%の156名が単位修得、芸術文化学部構成科目「数理・データサイエンス・AI入門」は履修者36名のうち94%の34名が単位修得した。</p> <p>また、各学期終了時に学生へ「授業改善アンケート」を実施し、その評価項目から学生への教育効果を分析している。その「授業改善アンケート」において、「教員は学習の目標、課題をはっきり示していましたか。」という評価項目について、経済情報学部構成科目については90%、芸術文化学部構成科目については69%が「最も高い評価」もしくは「高い評価」と回答している。</p> <p>この結果は各教員にフィードバックし、授業改善を図り、教育効果を高めていく。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>「授業改善アンケート」において、「正確な専門知識・技術が学べる授業でしたか。」という評価項目から、学生の理解度を確認した。経済情報学部構成科目については96%、芸術文化学部構成科目については75%が「最も高い評価」もしくは「高い評価」と回答している。</p> <p>この結果は本プログラム構成科目の授業内容を改善するための参考とし、次年度の教育プログラムの企画・開発、授業改善の検討材料とする。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>「授業改善アンケート」において、「この授業に対する総合評価を示してください。」という評価項目については、経済情報学部構成科目については98%、芸術文化学部構成科目については82%が「最も高い評価」もしくは「高い評価」と回答している。また「授業改善アンケート」の結果を受けて、教員がコメントを行い、改善を図っている。これらのことをオリエンテーションでも周知し、後輩等他の学生の履修を促す。</p>
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>当初プログラム構成科目を構築するにあたり、経済情報学部の既存の専門教育科目で審査項目を満たすことは可能であった。専門教育科目のため芸術文化学部の学生の履修者数と履修率向上が見込めないという判断から、基礎的な内容で構成した教養教育科目「数理・データサイエンス・AI入門」を新規開講した。経済情報学部は既存の専門教育科目をプログラム構成科目に設定し、芸術文化学部の学生が教養教育科目「数理・データサイエンス・AI入門」を履修しやすい状況にした。</p> <p>プログラム開始2年目となり対象学年が拡大するため、新入生オリエンテーションや在学生オリエンテーションでプログラム科目の履修を引き続き推奨し、履修率向上を図っていく。</p>

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	令和6年3月終了時点で本プログラムを修了した卒業生はいないため、自己点検・評価の対象外とする。今後、本学主催の企業懇談会等の機会を活用して採用担当者へのヒアリングを実施したり卒業生就職先の企業へアンケート調査等を実施したりして、教育プログラム修了者の企業における活躍状況や企業からの評価を調査していく予定である。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	上記同様、本学主催の企業懇談会等の機会を活用して採用担当者へのヒアリングや卒業生就職先の企業へアンケート調査等を実施して、意見や要望を収集する予定である。また、尾道市公立大学法人が行う「法人評価委員会」では、産業界からも委員を任命している。評価委員会から指摘のあった課題や意見については、改善を行っており、今後は本プログラムについての意見も聴取し、教育プログラムに反映させていく予定である。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	「授業改善アンケート」において、「授業の内容は興味深いものでしたか。」という評価項目について、経済情報学部構成科目については96%、芸術文化学部構成科目については63%が「最も高い評価」もしくは「高い評価」と回答している。経済情報学部については、高い評価となっており、学生が関心を深めることができる講義内容としている。芸術文化学部については、学生がもともと興味のある分野ではないため、上記の数字になっている。この結果は各教員にフィードバックし、授業改善を図り、教育効果を高めていく。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載	「授業改善アンケート」において、「教員は専門用語をわかりやすく説明した上で用いましたか。」という評価項目について、経済情報学部構成科目については86%、芸術文化学部構成科目については82%が「最も高い評価」もしくは「高い評価」と回答している。このことから、内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業を実施している。この結果は各教員にフィードバックし、授業改善を図り、教育効果を高めていく。

授業科目名	統計学 1		開講年次	1	開講年度学期	2023年度 後期	単位数	2
科目ナンバリング	E-CS-104L/G-NS-102L	担当教員名	宮川 貴史		担当形態	単独		
【科目の位置付け】								
<div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div>								
この授業の基礎となる科目				次に履修が望まれる科目	統計学 2			
【授業の目的と到達目標】								
<p>(授業の目的)</p> <p>この授業の目的は、大学における学習で必要となる統計学の基本を身につけることです。この授業では、記述統計と確率をテーマにします。記述統計とは、多数のデータをもとに調査対象の全体像を把握する知識の体系です。記述統計を学ぶことにより、調査対象の特徴を調べるためのデータの表現方法、値の計算方法などが理解でき、調査対象について様々な側面から分析できるようになります。また、意味を理解した上で、表計算ソフトや統計ソフトを使えるようになります。</p> <p>(受講生の到達目標)</p> <p>到達目標1：社会で活用されているデータを知り、統計学を学ぶ意義を説明できる。</p> <p>到達目標2：記述統計の考え方や基本的な手法を利用し、データを読み、データを説明し、適切に扱うことができる。</p> <p>到達目標3：平易な例について、実際に手を動かして計算できる。</p> <p>到達目標4：基本的な確率の計算ができる。</p>								
【授業の概要】								
<p>数学記号の取り扱い方法からはじめて、記述統計として、ヒストグラム、箱ひげ図、散布図といったデータの表現方法、平均、分散、標準偏差、相関係数などの値について学びます。推測統計の準備として、確率を学びます。授業中に簡単な問題を解く時間を設定し、学生が自分自身で理解状況を確認できるようにします。毎回の授業に対して、学習内容を深めることを目的とした演習課題を付与します。この演習課題に取り組みば、目標は十分に達成できます。</p>								
【授業計画と授業の方法】								
<p>(授業計画)</p> <p>第1回 授業の進め方、社会で活用されているデータ、数学記号の復習 (講義)</p> <p>第2回 平均、5数要約 (講義)</p> <p>第3回 箱ひげ図、分散 (講義)</p> <p>第4回 データの標準化、偏差値 (講義)</p> <p>第5回 度数分布表とヒストグラムの作成 (講義)</p> <p>第6回 回帰関係の計算 (講義)</p> <p>第7回 決定係数と相関係数 (講義)</p> <p>第8回 散布図の書き方と相関係数 (講義)</p> <p>第9回 中間のまとめ演習 (演習)</p> <p>第10回 集合、順列 (講義)</p> <p>第11回 組合せ (講義)</p> <p>第12回 標本点と確率 (講義)</p> <p>第13回 確率の加法定理、条件付き確率、確率の乗法定理 (講義)</p> <p>第14回 確率の乗法定理、ベイズの定理 (講義)</p> <p>第15回 学習事項のまとめ (演習)</p> <p>(授業の方法)</p> <p>■講義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習事項を板書しながら解説する形式で実施します。 ・授業中に簡単な問題を解く時間を設定し、その時間の学習内容について、到達目標の達成状況を確認できるようにします。 ・学習内容を深めることを目的とした演習課題を付与します。演習課題では、手計算だけでなく表計算ソフトも利用します。 <p>■演習</p>								

・ 学生が問題演習に取り組む形で実施します。これまでの学習について、到達目標の達成状況を確認できるようにします。

テキスト・参考書	<p>(テキスト) 宮川公男、『基本統計学(第5版)』、有斐閣、2022年 テキストで取り扱われていない内容については、資料を配布します。</p> <p>(参考書) 宮川公男、『統計学でリスクと向き合う[新版]』、東洋経済新報社、2008年</p>		
授業時間外の学修	<p>(事前学修) 授業内容について、指定教科書の該当部分に目を通しておく。</p> <p>(事後学修) 配布された演習課題に取り組む。</p>		
成績評価の方法と基準	<p>(成績評価の方法) 期末試験(40%) レポート(60%)</p> <p>(成績評価の基準) 到達目標1: 社会におけるデータの活用事例をあげて、統計学を学ぶ意義を記述できている。 到達目標2: データを取り扱う問題で、記述統計の基本的な手法を用い数学的にも正しく論述できている。 到達目標3: 演習課題を実施している。具体的な計算ができるかを問う問題で、正しく計算できている。 到達目標4: 基本的な確率の計算能力を問う問題で、正しく計算できている。</p>		
備 考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必ずノートを準備してください。 ・ 手計算と表計算ソフトの両方で問題を解くことで理解が深まります。 		
担当教員の実務経験の有無	×	実務経験の具体的内容	

授業科目名	統計学 1		開講年次	1	開講年度学期	2023年度 後期	単位数	2
科目ナンバリング	E-CS-104L/G-NS-102L	担当教員名	南郷 毅		担当形態	単独		
【科目の位置付け】								
<div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div>								
この授業の基礎となる科目					次に履修が望まれる科目	統計学 2		
【授業の目的と到達目標】								
<p>(授業の目的)</p> <p>この授業の目的は、大学における学習で必要となる統計学の基本を身につけることです。この授業では、記述統計と確率をテーマにします。記述統計とは、多数のデータをもとに調査対象の全体像を把握する知識の体系です。記述統計を学ぶことにより、調査対象の特徴を調べるためのデータの表現方法、値の計算方法などが理解でき、調査対象について様々な側面から分析できるようになります。また、意味を理解した上で、表計算ソフトや統計ソフトを使えるようになります。</p> <p>(受講生の到達目標)</p> <p>到達目標 1：社会で活用されているデータを知り、統計学を学ぶ意義を説明できる。 到達目標 2：記述統計の考え方や基本的な手法を利用し、データを読み、データを説明し、適切に扱うことができる。 到達目標 3：平易な例について、実際に手を動かして計算できる。 到達目標 4：基本的な確率の計算ができる。</p>								
【授業の概要】								
<p>数学記号の取り扱い方法からはじめて、記述統計として、ヒストグラム、箱ひげ図、散布図といったデータの表現方法、平均、分散、標準偏差、相関係数などの値について学びます。推測統計の準備として、確率を学びます。授業中に簡単な問題を解く時間を設定し、学生が自分自身で理解状況を確認できるようにします。毎回の授業に対して、学習内容を深めることを目的とした演習課題を付与します。この演習課題に取り組み、目標は十分に達成できます。</p>								
【授業計画と授業の方法】								
<p>(授業計画)</p> <p>第1回 授業の進め方、社会で活用されているデータ、数学記号の復習 (講義) 第2回 平均、5数要約 (講義) 第3回 箱ひげ図、分散 (講義) 第4回 データの標準化、偏差値 (講義) 第5回 度数分布表とヒストグラムの作成 (講義) 第6回 回帰関係の計算 (講義) 第7回 決定係数と相関係数 (講義) 第8回 散布図の書き方と相関係数 (講義) 第9回 中間のまとめ演習 (演習) 第10回 集合、順列 (講義) 第11回 組合せ (講義) 第12回 標本点と確率 (講義) 第13回 確率の加法定理、条件付き確率、確率の乗法定理 (講義) 第14回 確率の乗法定理、ベイズの定理 (講義) 第15回 学習事項のまとめ (演習)</p> <p>(授業の方法)</p> <p>■講義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習事項を板書しながら解説する形式で実施します。 ・授業中に簡単な問題を解く時間を設定し、その時間の学習内容について、到達目標の達成状況を確認できるようにします。 ・学習内容を深めることを目的とした演習課題を付与します。演習課題では、手計算だけでなく表計算ソフトも利用します。 <p>■演習</p>								

・学生が問題演習に取り組む形で実施します。これまでの学習について、到達目標の達成状況を確認できるようにします。

テキスト・参考書	<p>(テキスト) 宮川公男、『基本統計学(第5版)』、有斐閣、2022年 テキストで取り扱われていない内容については、資料を配布します。</p> <p>(参考書) 宮川公男、『統計学でリスクと向き合う[新版]』、東洋経済新報社、2008年</p>		
授業時間外の学修	<p>(事前学修) 授業内容について、指定教科書の該当部分に目を通しておく。</p> <p>(事後学修) 配布された演習課題に取り組む。</p>		
成績評価の方法と基準	<p>(成績評価の方法) 期末試験(40%) レポート(60%)</p> <p>(成績評価の基準) 到達目標1: 社会におけるデータの活用事例をあげて、統計学を学ぶ意義を記述できている。 到達目標2: データを取り扱う問題で、記述統計の基本的な手法を用い数学的にも正しく論述できている。 到達目標3: 演習課題を実施している。具体的な計算ができるかを問う問題で、正しく計算できている。 到達目標4: 基本的な確率の計算能力を問う問題で、正しく計算できている。</p>		
備 考	<p>・必ずノートを準備してください。 ・手計算と表計算ソフトの両方で問題を解くことで理解が深まります。</p>		
担当教員の実務経験の有無	x	実務経験の具体的内容	

授業科目名	マルチメディア論		開講年次	2	開講年度学期	2023年度 後期	単位数	2
科目ナンバリング	E-IN-207L	担当教員名	木村 文則		担当形態	単独		
【科目の位置付け】								
<p>教員の免許状取得のための必修科目 科目区分・・・教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報） 施行規則に定める科目区分又は事項等・・・マルチメディア表現及び実習（実習を含む）</p>								
この授業の基礎となる科目		次に履修が望まれる科目						
【授業の目的と到達目標】								
<p>（授業の目的） マルチメディアを実現するに至った技術について理解する。また、マルチメディアの進化に伴う、社会の変化について把握する。</p> <p>（受講生の到達目標） 到達目標1: デジタル化技術について説明できる。 到達目標2: 人工知能などのデジタルデータを活用する新たな技術について説明できる。 到達目標3: デジタル技術やそれを活用する新技術により社会がどのように変化したか説明できる。 到達目標4: これまでの社会の変化を踏まえ、今後の社会変化の予想を述べるができる。</p>								
【授業の概要】								
<p>音楽・動画のネット配信時代を迎えて、マルチメディアは、ビジネスや生活におけるコミュニケーションの際に必要なものとなってきている。授業ではマルチメディア（音声、画像、文字）のデジタル化について学び、その技術が社会でどのように活用されているかを明らかにする。また、デジタル化により大量のデータが生成されるようになったこと、および、それを活用するための新たな技術（例えば人工知能）についても学修する。</p>								
【授業計画と授業の方法】								
<p>（授業計画） 第 1 回 マルチメディアとは（講義） 第 2 回 デジタルとアナログ（講義） 第 3 回 音のデジタル化（講義） 第 4 回 画像のデジタル化（講義） 第 5 回 映像のデジタル化（講義） 第 6 回 文字のデジタル化（講義） 第 7 回 World Wide Webの進化（講義） 第 8 回 ソーシャルネットワークキングサービス（講義） 第 9 回 e-commerce（講義） 第 10 回 e-commerceを支える技術（講義） 第 11 回 人工知能の功罪: 人工知能、データ活用の留意事項（講義） 第 12 回 フィンテック（講義） 第 13 回 インターネット広告（講義） 第 14 回 ヴァーチャルリアリティ（講義） 第 15 回 メディアの進化と社会の変化（講義）</p> <p>（授業の方法） 授業は15回全て、パワーポイント等で作成されたスライドを用いて教員が講義する形で行います。講義資料は事前にkyouzaiフォルダなどで配布しますので、テキストと合わせて事前学修に役立ててください。</p>								
テキスト・参考書		講義資料をパワーポイントにより配布する						

授業時間外の学修	<p>(事前学修) 毎回の講義のトピックに関連するニュースや話題について関心を持ち、調べておく。</p> <p>(事後学修) 講義で触れた話題や技術についてあらためて調査し、社会で実際にどう活用されているか確認する。</p>		
成績評価の方法と基準	<p>(成績評価の方法) 期末レポート(100%)</p> <p>(成績評価の基準) 到達目標1~4: 講義で扱った技術やサービスおよび社会変化について踏まえたうえで、今後の社会変化の予想を論じることができている。</p>		
備 考			
担当教員の実務経験の有無	x	実務経験の具体的内容	

授業科目名	数理・データサイエンス・AI入門（リテラシーレベル）	開講年次	1	開講年度学期	2023年度 後期	単位数	2
科目ナンバリング		担当教員名	河村 勉	担当形態			
【科目の位置付け】							
この授業の基礎となる科目		次に履修が望まれる科目					
【授業の目的と到達目標】							
<p>（授業の目的）</p> <p>世界ではデジタル化とグローバル化が進み、社会・産業の転換が大きく進んでいる中で、今後のデジタル化社会の基礎知識として数理・データサイエンス・AIについての基礎的な知識を身に付けることがこの授業の目標です。また、これらの知識をもとに活用できるようになることも目的としています。本授業は2020年に数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムが発表したモデルカリキュラムに沿って授業が行われ、数理・データサイエンス・AI応用基礎に繋がります。</p> <p>（受講生の到達目標）</p> <p>到達目標1：データ・AI活用領域の広がりを理解し、データ・AIを活用する価値を説明することができる。</p> <p>到達目標2：文献や現象を読み解き、それらの関係を分析・考察し表現することができる。</p> <p>到達目標3：データ・AIを活用する際に求められるモラルや倫理について説明することができる。</p>							
【授業の概要】							
<p>数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムが発表したモデルカリキュラムのうち、「導入」の「社会におけるデータ・AI活用」について、「基礎」の「データリテラシー」について、「心得」の「データ・AI活用における留意事項」の3つの項目についてそれぞれ学修します。</p>							
【授業計画と授業の方法】							
<p>（授業計画）</p> <p>第1回 講義；社会におけるデータ・AI活用(1) 1.1 社会で起きている変化 演習；小テスト</p> <p>第2回 講義；社会におけるデータ・AI活用(2) 1.2 社会で活用されているデータ 演習；小テスト</p> <p>第3回 講義；社会におけるデータ・AI活用(3) 1.3 データ・AIの活用領域 演習；小テスト</p> <p>第4回 講義；社会におけるデータ・AI活用(4) 1.4 データ・AI活用のための技術(1) データを用いた解析法 演習；小テスト</p> <p>第5回 講義；社会におけるデータ・AI活用(5) 1.4 データ・AI活用のための技術(2) データの可視化法及びその種類 演習；小テスト</p> <p>第6回 講義；社会におけるデータ・AI活用(6) 1.4 データ・AI活用のための技術(3) AIでできること（機械学習等） 演習；小テスト</p> <p>第7回 講義；社会におけるデータ・AI活用(7) 1.5 データ・AI活用の現場、1.6 データ・AI活用の最新動向 演習；小テスト</p> <p>第8回 講義；データリテラシー(1) 2.1 データを読む(1) ヒストグラム、平均値、分散、標準偏差、等 演習；小テスト</p> <p>第9回 講義；データリテラシー(2) 2.1 データを読む(2) 散布図、相関係数、母集団、等 演習；小テスト</p> <p>第10回 講義；データリテラシー(3) 2.2 データを説明する（棒グラフ、散布図、折れ線グラフ、ヒートマップ、等） 演習；小テスト</p> <p>第11回 講義；データリテラシー(4) 2.3 データを扱う(1) Excelの基本動作、関数 演習；表計算ソフト（Excel）による演習</p> <p>第12回 講義；データリテラシー(5) 2.3 データを扱う(2) Excelのデータ解析ツール 演習；表計算ソフト（Excel）による演習</p> <p>第13回 講義；データ・AI活用における留意事項(1) 3.1 データ・AIを扱う上での留意事項(1)（個人情報保護、倫理や法） 演習；小テスト</p> <p>第14回 講義；データ・AI活用における留意事項(2) 3.1 データ・AIを扱う上での留意事項(2) データ・AI利用の失敗例</p>							

演習；小テスト 第15回 講義；データ・AI活用における留意事項(3) 3.2 データを守る上での留意事項（情報セキュリティ、プライバシー） 演習；小テスト （授業の方法） 授業時間中は講義と演習を実施します。			
テキスト・参考書	（テキスト）北川，竹村編，内田他著，データサイエンス入門シリーズ 教養としてのデータサイエンス，講談社，2021年 （参考書）授業で紹介します。		
授業時間外の学修	（事前学習）テキストにより予習を行い、必要に応じて次回授業に関連する資料収集や演習準備に取り組んでください。 （事後学習）演習課題、授業の復習、期末テストの準備に取り組んでください。		
成績評価の方法と基準	（成績評価の方法） 毎回の授業の小テスト・演習（40%）及び期末テスト（60%）で評価する。 （成績評価の基準） 到達目標1：第1回～第7回の小テストにおいて、講義内容を理解して回答を記述している。 到達目標2：第8回～第12回の小テスト・演習において、講義内容を理解して回答を記述している。 到達目標3：第13回～第15回の小テストにおいて、講義内容を理解して回答を記述している。		
備考	予習と復習をしっかりと行うこと。演習課題は必ず自ら行うこと。 表計算ソフト（Excel）がインストールされた大学ネットワークに接続可能なパソコンを用意してください。		
担当教員の 実務経験の有無		実務経験の 具体的内容	

授業科目名	数理・データサイエンス・AI入門（リテラシーレベル）	開講年次	1	開講年度学期	2023年度 後期	単位数	2
科目ナンバリング		担当教員名	松井 猛	担当形態			
【科目の位置付け】							
この授業の基礎となる科目		次に履修が望まれる科目					
【授業の目的と到達目標】							
<p>（授業の目的）</p> <p>世界ではデジタル化とグローバル化が進み、社会・産業の転換が大きく進んでいる中で、今後のデジタル化社会の基礎知識として数理・データサイエンス・AIについての基礎的な知識を身に付けることがこの授業の目標です。また、これらの知識をもとに活用できるようになることも目的としています。本授業は2020年に数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムが発表したモデルカリキュラムに沿って授業が行われ、数理・データサイエンス・AI応用基礎に繋がります。</p> <p>（受講生の到達目標）</p> <p>到達目標1：データ・AI活用領域の広がりを理解し、データ・AIを活用する価値を説明することができる。</p> <p>到達目標2：文献や現象を読み解き、それらの関係を分析・考察し表現することができる。</p> <p>到達目標3：データ・AIを活用する際に求められるモラルや倫理について説明することができる。</p>							
【授業の概要】							
<p>数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムが発表したモデルカリキュラムのうち、「導入」の「社会におけるデータ・AI活用」について、「基礎」の「データリテラシー」について、「心得」の「データ・AI活用における留意事項」の3つの項目についてそれぞれ学修します。</p>							
【授業計画と授業の方法】							
<p>（授業計画）</p> <p>第1回 講義；社会におけるデータ・AI活用(1) 1.1 社会で起きている変化 演習；小テスト</p> <p>第2回 講義；社会におけるデータ・AI活用(2) 1.2 社会で活用されているデータ 演習；小テスト</p> <p>第3回 講義；社会におけるデータ・AI活用(3) 1.3 データ・AIの活用領域 演習；小テスト</p> <p>第4回 講義；社会におけるデータ・AI活用(4) 1.4 データ・AI活用のための技術(1) データを用いた解析法 演習；小テスト</p> <p>第5回 講義；社会におけるデータ・AI活用(5) 1.4 データ・AI活用のための技術(2) データの可視化法及びその種類 演習；小テスト</p> <p>第6回 講義；社会におけるデータ・AI活用(6) 1.4 データ・AI活用のための技術(3) AIでできること（機械学習等） 演習；小テスト</p> <p>第7回 講義；社会におけるデータ・AI活用(7) 1.5 データ・AI活用の現場、1.6 データ・AI活用の最新動向 演習；小テスト</p> <p>第8回 講義；データリテラシー(1) 2.1 データを読む(1) ヒストグラム、平均値、分散、標準偏差、等 演習；小テスト</p> <p>第9回 講義；データリテラシー(2) 2.1 データを読む(2) 散布図、相関係数、母集団、等 演習；小テスト</p> <p>第10回 講義；データリテラシー(3) 2.2 データを説明する（棒グラフ、散布図、折れ線グラフ、ヒートマップ、等） 演習；小テスト</p> <p>第11回 講義；データリテラシー(4) 2.3 データを扱う(1) Excelの基本動作、関数 演習；表計算ソフト（Excel）による演習</p> <p>第12回 講義；データリテラシー(5) 2.3 データを扱う(2) Excelのデータ解析ツール 演習；表計算ソフト（Excel）による演習</p> <p>第13回 講義；データ・AI活用における留意事項(1) 3.1 データ・AIを扱う上での留意事項(1)（個人情報保護、倫理や法） 演習；小テスト</p> <p>第14回 講義；データ・AI活用における留意事項(2) 3.1 データ・AIを扱う上での留意事項(2) データ・AI利用の失敗例</p>							

演習；小テスト 第15回 講義；データ・AI活用における留意事項(3) 3.2 データを守る上での留意事項（情報セキュリティ、プライバシー） 演習；小テスト （授業の方法） 授業時間中は講義と演習を実施します。			
テキスト・参考書	（テキスト）北川，竹村編，内田他著，データサイエンス入門シリーズ 教養としてのデータサイエンス，講談社，2021年 （参考書）授業で紹介します。		
授業時間外の学修	（事前学習）テキストにより予習を行い、必要に応じて次回授業に関連する資料収集や演習準備に取り組んでください。 （事後学習）演習課題、授業の復習、期末テストの準備に取り組んでください。		
成績評価の方法と基準	（成績評価の方法） 毎回の授業の小テスト・演習（40%）及び期末テスト（60%）で評価する。 （成績評価の基準） 到達目標1：第1回～第7回の小テストにおいて、講義内容を理解して回答を記述している。 到達目標2：第8回～第12回の小テスト・演習において、講義内容を理解して回答を記述している。 到達目標3：第13回～第15回の小テストにおいて、講義内容を理解して回答を記述している。		
備考	予習と復習をしっかりと行うこと。演習課題は必ず自ら行うこと。 表計算ソフト（Excel）がインストールされた大学ネットワークに接続可能なパソコンを用意してください。		
担当教員の 実務経験の有無		実務経験の 具体的内容	

教育課程表

1 教養教育科目

開講年次から履修することが可能。

区分	授業科目の名称	科目ナンバリング	授業の方法	単位数			開講年次	開講学期	担当教員	備考	
				必修	選択必修	選択					
地域・キャリア	尾道学入門	G-LC-101L	講義			2	1	前	森本 幾子	() 内は経済情報学科の単位数	
	地域の伝統文化 (囲碁)	G-LC-102L	演習			2	1	後	山本 賢太郎		
	キャリア形成入門	G-LC-111L	講義	(2)		2	1	後	八木 力俊		
	キャリア形成演習	G-LC-211S	演習			2	2	後	八木 力俊		
	インターンシップ	G-LC-212P	実習			2	2	前・後	八木・各学科専任教員		
人文科学科目	人生の哲学	G-HU-101L	講義			2	1	前	松井 富美男	経済情報学科・日本文学科4単位以上 美術学科を除く	
	生命倫理	G-HU-102L	講義			2	1	後	松井 富美男		
	論理学	G-HU-201L	講義			2	2	前	赤井 清晃		
	東洋思想	G-HU-104L	講義			2	1	後	山崎 一穂		
	心理学入門	G-HU-103L	講義			2	1	前	塚本 真紀		
	日本の文学	G-HU-112L	講義			2	1	前	原 卓史		
	文章表現法 (学術的文章)	G-HU-111L	講義			2	1	前	塚本 真紀		
	文章表現法 (実用的文章)	G-HU-113L	講義			2	1	後	平山 直樹		
	美術表現入門	G-HU-111L	講義			2	1	後	中村 譲		
	美術の歴史と鑑賞	G-HU-121L	講義			2	1	集中	福田 道宏		
	演劇の歴史と鑑賞	G-HU-122L	講義			2	2	前	住田 光子		
	文化財学	G-HU-221L	講義			2	1	後	浅利・宇根元・西井・藤井		
	思考とデザイン	G-HU-131L	講義			2	1	後	黒田 教裕		
	Topics in Language,Culture,and Society	G-HU-202L	講義			2	2	前	高垣・平山・小林		
	日本文化史 (経済情報)	G-HU-231L	講義			2	2	後	齋藤 拓海		
	瀬戸内文化論 (経済情報)	G-HU-431L	講義			2	4	前	藤井 佐美		
民俗学 I (美術)	G-HU-331L	講義			2	3	前	藤井 佐美			
民俗学 II (美術)	G-HU-332L	講義			2	3	後	藤井 佐美			
メディアグラフィックス概論 (日本文学)	G-HU-203L	講義			2	2	後	山本 めぐみ			
編集とデザイン (日本文学)	G-HU-224L	講義			2	2	前	小畑拓也・世永逸彦			
社会科学科目	現代社会と人間行動	G-SS-145L	講義			2	1	後	塚本 真紀	経済情報学科・日本文学科4単位以上 美術学科を除く	
	法学概論	G-SS-101L	講義			2	1	前	溝淵 裕		
	日本国憲法	G-SS-102L	講義			2	1	後	溝淵 裕		
	世界歴史の流れ	G-SS-111L	講義			2	1	前	村上 亮		
	日本歴史の流れ	G-SS-112L	講義			2	1	後	森本 幾子		
	政治学入門	G-SS-121L	講義			2	1	集中	堀 雅晴		
	社会思想史	G-SS-122L	講義			2	1	前	林 直樹		
	現代の経済学	G-SS-123L	講義			2	1	後	井本 伸		
	社会保障入門	G-SS-142L	講義			2	1	後	中嶋 裕子		
	社会学入門	G-SS-141L	講義			2	1	後	山口 健一		
	メディア論	G-SS-143L	講義			2	1	後	阿部 純		
	文化社会学	G-SS-144L	講義			2	1	前	阿部 純		
民法入門	G-SS-103L	講義			2	1	前	王 佳子			
簿記入門 (芸術文化)	G-SS-131L	講義			2	1	後	吉田政之・芝田全弘			
ファイナンシャル・プランニング (芸術文化)	G-SS-132L	講義			2	1	後	小泉 伸			
自然科学科目	教養数学	G-NS-101L	講義			2	1	後	川口 俊宏	経済情報学科・日本文学科4単位以上 美術学科を除く	
	物理学入門	G-NS-111L	講義			2	1	前	川口 俊宏		
	地球と宇宙	G-NS-112L	講義			2	1	後	川口 俊宏		
	物質の世界	G-NS-212L	講義			2	2	後	林 幾江		
	生物科学入門	G-NS-211L	講義			2	2	前	中村 隼明		
	科学技術の進歩	G-NS-131L	講義			2	1	後	川口 俊宏		
	情報科学入門	G-NS-121L	講義			2	1	前	本田 治		
	建築環境論	G-NS-132L	講義			2	1	前・後	渡邊 義孝		
	数学の基礎と歴史	G-NS-103L	講義			2	1	後	宮川 貴史		
	情報と倫理 (芸術文化)	G-NS-122L	講義			2	1	集中	笠井 俊信		
	統計学 I (芸術文化)	G-NS-102L	講義			2	1	後	南郷 毅・宮川貴史		
	人間工学概論 (経済情報・日本文学)	G-NS-231L	講義			2	2	集中	神邊 篤史		
数理・データサイエンス・AI 入門	G-NS-120L	講義			2	1	後	河村 勉・松井 猛			
健康スポーツ	健康スポーツ学	G-HS-102L	講義			2	1	後	藤岩 秀樹	必修1科目1単位を含め、2単位以上	
	健康スポーツ実習 I	G-HS-101P	実習	1				通年	藤岩秀樹・松木雅文		
	健康スポーツ実習 II	G-HS-201P	実習			1	2	通年	藤岩秀樹・入澤雅典		
	野外スポーツ実習	G-HS-202P	実習			1	2	集中(後)	藤岩 秀樹		
外国語科目	総合英語 I	G-FL-101L	講義	2				1	前	小林・三上	経済情報学科 日本文学科 必修2科目4単位、選択必修2科目4単位を含め、12単位以上 美術学科 必修2科目4単位を含め6単位以上 () 内は、美術学科の単位数 ※日本語 I、日本語 II は留学生のみ履修可能
	総合英語 II	G-FL-102L	講義	2				1	後	コレップファー	
	TOEIC I	G-FL-201L	講義		2	(2)	2	前	平山直樹・池森典子		
	TOEIC II	G-FL-202L	講義		2	(2)	2	後	平山・田淵・池森		
	応用英語 I	G-FL-203L	講義		2	(2)	2	前	高垣・高島・平山		
	応用英語 II	G-FL-204L	講義		2	(2)	2	後	高垣・高島・平山		
	上級英語 I	G-FL-301L	講義		2	3	前	高垣俊之・平山直樹			
	上級英語 II	G-FL-302L	講義		2	3	後	高垣俊之・平山直樹			
	ドイツ語 I	G-FL-111L	講義		2	1	前	中村道一・名倉周平			
	ドイツ語 II	G-FL-112L	講義		2	1	後	中村道一・名倉周平			
	フランス語 I	G-FL-121L	講義		2	1	前	渡部 浩見			
	フランス語 II	G-FL-122L	講義		2	1	後	渡部 浩見			
	中国語 I	G-FL-131L	講義		2	1	前	張 健			
	中国語 II	G-FL-132L	講義		2	1	後	張 健			
	日本語 I	G-FL-141L	講義		2	1	前	吉田 普子			
	日本語 II	G-FL-142L	講義		2	1	後	吉田 普子			
海外語学実践 I	G-FL-151L	講義		2	1・2	後・前	高垣俊之・小林ドーン				
海外語学実践 II	G-FL-251L	講義		2	2	前・後	高垣俊之・小林ドーン				

合計24単位以上

2 経済情報学部 経済情報学科

開講年次から履修することが可能。

区分	授業科目の名称	科目ナンバリング	授業の方法	単位数									開講年次	開講学期	担当教員	備考	
				共通必修	経済必修	経済選択必修	経済選択	経営必修	経営選択必修	経営選択	情報必修	情報選択必修					情報選択
専門基礎科目	経済学入門Ⅰ(ミクロ)	E-EC-101L	講義	2									1	前	荒井貴史・堀江進也	1.共通必修科目 12科目23単位 2.コース別 必修科目 ・経済2科目4単位 ・経営2科目4単位 ・情報3科目5単位 選択必修科目 ・経済7科目14単位 ・経営7科目14単位 ・情報7科目13単位 選択必修科目及び選択科目から ・経済63単位以上 ・経営63単位以上 ・情報62単位以上	
	経済学入門Ⅱ(マクロ)	E-EC-102L	講義	2									1	後	井本伸・河野洋		
	経営学入門	E-MN-101L	講義	2									1	前	西村剛		
	簿記入門	E-MN-102L	講義	2									1	後	吉田政之・芝田全弘		
	商業簿記	E-MN-201L	講義			2			2				2	2	後		角裕太
	工業簿記	E-MN-202L	講義			2			2				2	2	前		関下弘樹
	情報とコンピュータ	E-IN-102L	講義	2									1	後	杉山克典		
	情報活用基礎Ⅰ	E-IN-101P	実習	1									1	前	宮川高木・松本		
	情報活用基礎Ⅱ	E-IN-103P	実習			1			1				1	後	高山毅・松本慎平		
	ファイナシャル・プランニング	E-CS-103L	講義			2			2				2	1	後		小泉伸
共通専門科目	統計学Ⅰ	E-CS-104L	講義			2			2				1	後	南郷毅・宮川貴史		
	統計学Ⅱ	E-CS-202L	講義			2			2			2	2	前	南郷毅		
	基礎数学Ⅰ	E-CS-203L	講義	2									1	後	宮川貴史・川口俊宏		
	基礎数学Ⅱ	E-CS-204L	講義			2			2				2	前	宮川貴史		
	財政学Ⅰ	E-EC-205L	講義			2			2			2	2	前	栗田広暁		
	財政学Ⅱ	E-EC-206L	講義			2			2			2	2	後	栗田広暁		
	金融論Ⅰ	E-EC-207L	講義			2			2			2	2	前	神崎稔章		
	金融論Ⅱ	E-EC-208L	講義			2			2			2	2	後	神崎稔章		
	経済政策Ⅰ	E-EC-209L	講義			2			2			2	2	前	大西澤俊一		
	経済政策Ⅱ	E-EC-210L	講義			2			2			2	2	後	大西澤俊一		
	経営学総論	E-MN-205L	講義			2		2					2	2	後	村剛	
	経営情報論	E-IN-201L	講義			2			2				2	2	後	有馬昌俊	
	情報と倫理	E-IN-106L	講義			2			2		2	2	1	集中	有馬昌俊		
	経済情報論	E-IN-202L	講義			2			2				2	2	前	西岡茂樹	
	経済経営情報実習	E-IN-203P	実習			1			1				1	2	後	堀江進也	
	多変量解析	E-EC-301L	講義			2			2				2	3	後	川口俊宏	
	民法	E-CS-201L	講義			2			2				2	2	前	王佳子	
	企業法	E-MN-208L	講義			2			2				2	2	後	王佳子	
	商法	E-MN-209L	講義			2			2				2	2	後	松原正至	
	行政法	E-MN-311L	講義			2			2				2	3	前	伊藤治彦	
外国語講読Ⅰ	E-CS-205L	講義			2			2				2	2	前	河野洋・川口俊宏		
外国語講読Ⅱ	E-CS-206L	講義			2			2				2	2	後	栗田広暁・林直樹		
ビジネス英語	E-CS-207L	講義			2			2				2	2	後	三上ジュディス		
演習	基礎演習Ⅰ	E-CS-101S	演習	2									1	前	専任教員		
	基礎演習Ⅱ	E-CS-102S	演習			2			2				1	後	専任教員		
	専門演習Ⅰa	E-CS-301S	演習	2									3	前	専任教員		
	専門演習Ⅰb	E-CS-302S	演習	2									3	後	専任教員		
	専門演習Ⅱa(卒業研究)	E-CS-401T	演習	2									4	前	専任教員		
	専門演習Ⅱb(卒業研究)	E-CS-402T	演習	2									4	後	専任教員		
	特別演習Ⅰ	E-CS-211S	演習			2		2					2	前	専任教員		
	特別演習Ⅱ	E-CS-212S	演習			2		2					2	後	専任教員		
	特別演習Ⅲ	E-CS-213S	演習			2		2					2	前	専任教員		
	特別演習Ⅳ	E-CS-214S	演習			2		2					2	後	専任教員		
	特別演習Ⅴ	E-CS-215Z	演習			2		2					1・2	後・前	専任教員		
	特別演習Ⅵ	E-CS-216Z	演習			2		2					2	前・後	専任教員		
	経済系	ミクロ経済学Ⅰ	E-EC-201L	講義			2			2				2	2	後	堀江進也
		ミクロ経済学Ⅱ	E-EC-202L	講義			2			2				2	2	後	堀江進也
マクロ経済学Ⅰ		E-EC-203L	講義			2			2				2	2	前	井本伸	
マクロ経済学Ⅱ		E-EC-204L	講義			2			2				2	2	後	井本伸	
環境経済学		E-EC-215L	講義			2			2				2	2	後	岡本隼輔	
計量経済学		E-EC-302L	講義			2			2				2	3	前	岡本隼輔	
経済学史		E-EC-211L	講義			2			2				2	2	前	林森直幾	
経済史		E-EC-212L	講義			2			2				2	2	前	林森直幾	
日本経済史		E-EC-213L	講義			2			2				2	2	後	森本幾子	
地域経済史		E-EC-303L	講義			2			2				2	3	前	森本幾子	
貨幣経済学		E-EC-304L	講義			2			2				2	3	前	河野洋	
日本経済論		E-EC-214L	講義			2			2				2	3	後	林直樹	
社会政策		E-EC-305L	講義			2			2				2	3	集中	藤岡秀英	
社会保障		E-EC-306L	講義			2			2				2	3	集中	藤岡秀英	
国際経済学		E-EC-307L	講義			2			2				2	3	前	岡本隼輔	
国際金融論		E-EC-308L	講義			2			2				2	3	後	神崎稔章	
公共経済学		E-EC-309L	講義			2			2				2	3	後	荒井貴史	
地方財政論		E-EC-310L	講義			2			2				2	3	前	栗田広暁	
アジア経済事情		E-EC-311L	講義			2			2				2	3	前	神崎稔章	
主要専門科目		経営組織論	E-MN-206L	講義			2			2				2	2	後	宮川貴史
	マーケティング論	E-MN-301L	講義			2			2				2	3	前	小川長	
	経営戦略論	E-MN-207L	講義			2			2				2	2	後	小川長	
	経営管理論	E-MN-302L	講義			2			2				2	3	前	宮川貴史	
	日本企業論	E-MN-310L	講義			2			2				2	3	後	宮川貴史	
	国際経営論	E-MN-303L	講義			2			2				2	3	後	趙怡純	
	経営史	E-MN-213L	講義			2			2				2	2	後	西村剛	
	租税論	E-MN-210L	講義			2			2				2	2	後	前田謙二	
	会計学概論	E-MN-103L	講義			2			2				2	1	後	前田謙二	
	経営分析論	E-MN-304L	講義			2			2				2	3	前	芝田全弘	
	財務管理論	E-MN-305L	講義			2			2				2	3	後	関下弘樹	
	税務会計論	E-MN-306L	講義			2			2				2	3	前	前田謙二	
	管理会計論	E-MN-307L	講義			2			2				2	3	前	吉田政之	
	財務会計論	E-MN-203L	講義			2			2				2	2	前	津村善之	
	監査論	E-MN-308L	講義			2			2				2	3	集中	井上田花	
	原価計算論	E-MN-204L	講義			2			2				2	2	後	吉田善之	
	製品開発論	E-MN-211L	講義			2			2				2	2	後	趙怡純	
	生産管理論	E-MN-212L	講義			2			2				2	2	前	趙怡純	
	証券市場論	E-MN-309L	講義			2			2				2	3	後	小川長	
	プログラミングⅠ	E-IN-104L	講義			2			2				2	1	後	有吉勇介・木村文則	
	プログラミングⅠ実習	E-IN-105P	実習			1			1				1	1	後	有吉勇介・木村文則	
	プログラミングⅡ	E-IN-204L	講義			2			2				2	2	前	高山毅	
	プログラミングⅡ実習	E-IN-205P	実習			1			1				1	2	前	高山毅	
	機械学習と人工知能	E-IN-210L	講義			2			2				2	2	前	本田治・木村文則	
	情報基礎理論	E-IN-208L	講義			2			2				2	2	後	有吉勇介・本田治	
	マルチメディア論	E-IN-207L	講義			2			2				2	2	後	木村文則	
	ネットワーク科学	E-IN-301L	講義			2			2				2	2	前	本田治	
	情報ネットワーク	E-IN-302L	講義			2			2				2	3	後	本田治	
	情報システム設計論	E-IN-303L	講義			2			2				2	3	前	有吉勇介	
	情報システム設計実習	E-IN-304P	実習			1			1				1	3	前	有吉勇介	
データベース	E-IN-305L	講義			2			2				2	3	後	高山毅		
ビッグデータ活用	E-IN-306L	講義			2			2				2	3	前	木村文則		
CGと画像解析	E-IN-209L	講義			2			2				2	2	後	山本めぐみ		
ビジネスとデータサイエンス	E-IN-308L	講義			2			2				2	3	後	中西正		
情報セキュリティ	E-IN-311L	講義			2			2				2	3	後	令和5年度採用予定		
システム監査とITマネジメント	E-IN-309L	講義			2			2				2	3	集中	佐藤達男		
情報と職業	E-IN-310L	講義			2			2				2	3	後	田村聡一郎		
職業指導系 職業指導	E-CS-303L	講義			2			2				2	3	後	餅川正雄		

3 芸術文化学部 日本文学科

開講年次から履修することが可能。

区分	授業科目の名称	科目ナンバリング	授業の方法	単位数		開講年次	開講学期	担当教員	備考
				必修	選択				
学部 科目 共通	芸術文化論	J-IC-201L	講義	2	2	2	集中	深谷 訓子	2科目4単位以上
	日本文化史	J-IC-211L	講義	2	2	2	後	齋藤 拓海	
	比較芸術論	J-IC-302L	講義	2	3	2	集中	杉山 卓史	
	瀬戸内文化論	J-IC-312L	講義	2	3	2	前	藤井 聡美	
日本文学系	日本文学概論	J-JLT-101L	講義	2	1	1	前	宮谷 聡美	2単位必修
	日本文学史Ⅰ(上代)	J-JLT-111L	講義	2	1	1	前	松田 聡美	
	日本文学史Ⅱ(中古)	J-JLT-212L	講義	2	2	2	前	宮谷 聡美	2科目4単位以上
	日本文学史Ⅲ(中世)	J-JLT-213L	講義	2	1	1	後	藤川 功和	
	日本文学史Ⅳ(近世)	J-JLT-214L	講義	2	1	1	後	吉田 宰	
	日本文学史Ⅴ(近代)	J-JLT-115L	講義	2	1	1	前	原 卓史	
	日本文学講読Ⅰ(上代)	J-JLT-221L	講義	2	2	2	前	松田 聡美	5科目10単位以上
	日本文学講読Ⅱ(中古)	J-JLT-222L	講義	2	2	2	後	宮谷 聡美	
	日本文学講読Ⅲ(中世)	J-JLT-223L	講義	2	2	2	前	藤川 功和	
	日本文学講読Ⅳ(近世)	J-JLT-224L	講義	2	2	2	前	吉田 宰	
	日本文学講読Ⅴ(近現代)	J-JLT-225L	講義	2	2	2	後	原 卓史	
	日本文学講読Ⅵ(近現代)	J-JLT-226L	講義	2	2	2	後	柴市 郎	
	日本文学講義Ⅰ(上代~中世)	J-JLT-331L	講義	2	3	2	前	藤川 功和	
	日本文学講義Ⅱ(近世)	J-JLT-332L	講義	2	3	2	後	吉田 宰	
日本文学講義Ⅲ(近現代)	J-JLT-333L	講義	2	3	2	前	柴市 郎		
日本文学講義Ⅳ(近現代)	J-JLT-334L	講義	2	3	2	後	原 卓史		
日本文学特殊講義	J-JLT-435L	講義	2	4	2	前	宮谷 聡美		
日本語学系	日本語学概論	J-JLN-101L	講義	2	1	1	前	灰谷 謙二	必修2科目4単位を含め、 10単位以上
	日本語表現法	J-JLN-101S	演習	2	1	1	前・後	高島 彬	
	日本語史	J-JLN-202L	講義	2	2	2	前	藤本 真理子	
	日本語学講義Ⅰ(古典語)	J-JLN-211L	講義	2	2	2	後	藤本 真理子	
	日本語学講義Ⅱ(現代語)	J-JLN-212L	講義	2	2	2	後	灰谷 謙二	
	日本語学講義Ⅲ(古典語)	J-JLN-313L	講義	2	3	2	後	藤本 真理子	
日本語学講義Ⅳ(現代語)	J-JLN-314L	講義	2	3	2	前	灰谷 謙二		
中国欧米文学	中国文学概論	J-CW-101L	講義	2	1	1	後	鷹橋 明久	必修2科目4単位を含め、 8単位以上
	中国文学講読	J-CW-211L	講義	2	2	2	前	鷹橋 明久	
	中国文学講義	J-CW-312L	講義	2	3	2	前	鷹橋 明久	
	欧米文学概論	J-CW-102L	講義	2	1	1	後	小畑 拓也	
	欧米文学講義	J-CW-213L	講義	2	2	2	後	小畑 拓也	
	比較文学	J-CW-314L	講義	2	3	2	前	小畑 拓也	
関連科目	日本歴史概説Ⅰ	J-RE-201L	講義	2	2	2	前	齋藤 拓海	10単位以上
	日本歴史概説Ⅱ	J-RE-202L	講義	2	2	2	後	齋藤 拓海	
	美学	J-RE-111L	講義	4	1	1	通年	西嶋 亜美	
	日本美術史Ⅰ	J-RE-112L	講義	2	1	1	前	市川 彰	
	日本美術史Ⅱ	J-RE-113L	講義	2	1	1	後	市川 彰	
	東洋美術史Ⅰ	J-RE-114L	講義	2	1	1	集中	高橋 早紀子	
	東洋美術史Ⅱ	J-RE-115L	講義	2	1	1	集中	高橋 早紀子	
	西洋美術史Ⅰ	J-RE-116L	講義	2	1	1	前	西嶋 亜美	
	西洋美術史Ⅱ	J-RE-117L	講義	2	1	1	後	西嶋 亜美	
	書道Ⅰ	J-RE-221L	講義	2	2	2	前	矢原 徳子	
	書道Ⅱ	J-RE-222L	講義	2	2	2	後	矢原 徳子	
	民話研究	J-RE-203L	講義	2	2	2	後	藤井 佐美	
	民俗学Ⅰ	J-RE-304L	講義	2	3	2	前	藤井 佐美	
	民俗学Ⅱ	J-RE-305L	講義	2	3	2	後	藤井 佐美	
	古文書学	J-RE-323L	講義	2	3	2	前	水野 椋太	
	文芸創作入門	J-RE-131S	演習	2	1	1	後	小畑 拓也	
	文芸創作特別演習	J-RE-332S	演習	2	3	2	後	柴市 郎	
	情報処理演習	J-RE-141S	演習	2	1	1	集中	久保 博雅	
	フィールドワーク	J-RE-342S	演習	2	3	2	通年	専任 教員	
	日本文学のための英語	J-RE-343L	講義	2	3	2	後	高垣 俊之	
演習 卒論	古典文学基礎演習	J-SG-101S	演習	2	1	1	前・後	藤川 功和	3科目6単位必修
	近現代文学基礎演習	J-SG-102S	演習	2	1	1	前・後	柴市 郎	
	日本語学基礎演習	J-SG-103S	演習	2	1	1	前・後	藤本 真理子・灰谷 謙二	
	中古文学専門演習 a	J-SG-310S	演習	2	2	2	前	宮谷 聡美	2科目4単位以上
	中古文学専門演習 b	J-SG-311S	演習	2	2	2	後	宮谷 聡美	
	中世文学専門演習 a	J-SG-312S	演習	2	2	2	前	藤川 功和	2科目4単位以上
	中世文学専門演習 b	J-SG-313S	演習	2	2	2	後	藤川 功和	
	近世文学専門演習 a	J-SG-314S	演習	2	2	2	前	吉田 宰	2科目4単位以上
	近世文学専門演習 b	J-SG-315S	演習	2	2	2	後	吉田 宰	
	近現代文学専門演習Ⅰ a	J-SG-316S	演習	2	2	2	前	原 卓史	2科目4単位以上
	近現代文学専門演習Ⅰ b	J-SG-317S	演習	2	2	2	後	原 卓史	
	近現代文学専門演習Ⅱ a	J-SG-318S	演習	2	2	2	前	柴市 郎	2科目4単位以上
	近現代文学専門演習Ⅱ b	J-SG-319S	演習	2	2	2	後	柴市 郎	
	現代語学専門演習 a	J-SG-321S	演習	2	2	2	前	灰谷 謙二	2科目4単位以上
	現代語学専門演習 b	J-SG-322S	演習	2	2	2	後	灰谷 謙二	
	古典語学専門演習 a	J-SG-323S	演習	2	2	2	前	藤本 真理子	2科目4単位以上
	古典語学専門演習 b	J-SG-324S	演習	2	2	2	後	藤本 真理子	
	中国文学専門演習 a	J-SG-331S	演習	2	2	2	前	鷹橋 明久	2科目4単位以上
	中国文学専門演習 b	J-SG-332S	演習	2	2	2	後	鷹橋 明久	
	欧米文学専門演習 a	J-SG-341S	演習	2	2	2	前	小畑 拓也	2科目4単位以上
	欧米文学専門演習 b	J-SG-342S	演習	2	2	2	後	小畑 拓也	
	文芸創作専門演習 a	J-SG-351S	演習	2	2	2	前	小林 敦子	2科目4単位以上
	文芸創作専門演習 b	J-SG-352S	演習	2	2	2	後	小林 敦子	
	国語教育学専門演習 a	J-SG-361S	演習	2	2	2	前	信木 信一	2科目4単位以上
	国語教育学専門演習 b	J-SG-362S	演習	2	2	2	後	信木 信一	
	伝承文学専門演習 a	J-SG-371S	演習	2	2	2	前	藤井 佐美	2科目4単位以上
	伝承文学専門演習 b	J-SG-372S	演習	2	2	2	後	藤井 佐美	
	卒業論文(構想・準備)	J-SG-481T	演習	2	4	4	前	専任 教員	2科目4単位必修
	卒業論文(制作)	J-SG-482T	演習	2	4	4	前・後	専任 教員	

4 芸術文化学部 美術学科

開講年次から履修することが可能。

区分	授業科目の名称	科目ナンバリング	授業の方法	単位数		開講年次	開講学期	担当教員	備考	
				必修	選択					
学部共通科目	芸術文化論	A-IC-201L	講義		2	2	集中	深谷 訓子	4 単位以上	
	日本文化史	A-IC-231L	講義		2	2	後	齋藤 拓海		
	比較芸術論	A-IC-301L	講義		2	3	集中	杉山 卓史		
	瀬戸内文化論	A-IC-431L	講義		2	3	前	藤井 佐美		
専門基幹科目	美学	A-SF-101L	講義	4		1	通年	西嶋 亜美	必修1科目4単位を含め、20単位以上	
	日本美術史Ⅰ	A-SF-102L	講義		2	1	前	市川 彰		
	日本美術史Ⅱ	A-SF-103L	講義		2	1	後	市川 彰		
	東洋美術史Ⅰ	A-SF-104L	講義		2	1	集中	高橋 早紀子		
	東洋美術史Ⅱ	A-SF-105L	講義		2	1	集中	高橋 早紀子		
	西洋美術史Ⅰ	A-SF-106L	講義		2	1	前	西嶋 亜美		
	西洋美術史Ⅱ	A-SF-107L	講義		2	1	後	西嶋 亜美		
	デザイン史Ⅰ	A-SF-109L	講義		2	1	前	多田 羅景太		
	デザイン史Ⅱ	A-SF-110L	講義		2	1	後	多田 羅景太		
	デザイン論	A-SF-111L	講義		2	1	前	野崎・世永・林・桜田 伊藤・黒田・白木		
	美術解剖学	A-SF-112L	講義		2	1	集中	今井 良枝		
	空間造形論	A-SF-211L	講義		2	2	後	小野・松岡・稲川・渡邊 山本		
	図法及び製図	A-SF-121S	演習		2	1	後	渡邊 義孝		
	金工演習	A-SF-221S	演習		2	2	後	桜田 知文		
	写真(映像)演習	A-SF-122S	演習		2	1	前・後	野田 尚之		
	木工演習	A-SF-123S	演習		2	1	後	林 宏・松本祐助		
	塗装法演習	A-SF-124S	演習		2	1	前	桜田・林・松本・田代		
	壁画技法演習	A-SF-222S	演習		2	2	集中	菅原 智子		
テンペラ画技法演習	A-SF-223S	演習		2	2	集中	赤木 範陸			
版画制作演習	A-SF-224S	演習		2	2	前・後	高垣秀光・藤田紗衣			
基礎造形科目	デッサン基礎実習	A-FS-101P	実習	4		1	通年	小野・中村・野崎	必修4科目14単位	
	構成実習	A-FS-102P	実習	2		1	通年	野崎・中村・小野		
	彫刻	A-FS-103P	実習	4		1	通年	秋山 隆		
	総合基礎実習	A-FS-104P	実習	4		1	通年	中村・小野・野崎		
専門実習科目	日本画	日本画実習Ⅰ	A-SJ-201P	実習		12	2	通年	中村・鈴木・山梨	専門実習科目については、日本画、油画、デザインの3コース別に分かれる。必修2科目14単位を含め、50単位以上
		日本画実習Ⅱ	A-SJ-301P	実習		14	3	通年		
		日本画実習Ⅲ	A-SJ-401P	実習		10	4	通年		
	油画	油画実習Ⅰ	A-SO-211P	実習		12	2	通年	小野・稲川 橋野・西村	
		油画実習Ⅱ	A-SO-311P	実習		14	3	通年		
		油画実習Ⅲ	A-SO-411P	実習		10	4	通年		
	デザイン	デザイン実習Ⅰ	A-SD-221P	実習		12	2	通年	野崎・世永・桜田 林・伊藤・黒田	
		デザイン実習Ⅱ	A-SD-321P	実習		14	3	通年		
デザイン実習Ⅲ		A-SD-421P	実習		10	4	通年			
	古美術研究(演習)	A-SJ-302S A-SO-312S A-SD-322S	演習	4			3	通年	専任教員	
	卒業制作	A-SJ-402T A-SO-412T A-SD-422T	実習	10			4	通年	専任教員	
関連科目	文化財保存学概論	A-RC-101L	講義		2	1	集中	山田 祐子	2科目4単位以上	
	人間工学概論	A-RC-231L	講義		2	2	集中	神邊 篤史		
	情報機能論	A-RC-201L	講義		2	2	後	野崎・今氏・佐古・加藤 玉木・野田・弥中		
	書道	A-RC-221L	講義		2	1	前	矢原 徳子		
	古文書学	A-RC-323L	講義		2	3	前	水野 椋太		
	メディアグラフィックス概論	A-RC-202L	講義		2	2	後	山本 めぐみ		
	編集とデザイン	A-RC-224L	講義		2	2	前	小畑拓也・世永逸彦		
	情報処理演習	A-RC-141S	演習		2	1	集中	久保 博雅		

尾道市立大学 数理・データサイエンス・A I 教育プログラム専門部会設置要綱

令和5年4月1日

(趣旨)

第1条 尾道市立大学（以下「本学」という。）は、数理・データサイエンス・A I 教育プログラムに関して企画・開発等を行うために、教務委員会内に設置する数理・データサイエンス・A I 教育プログラム専門部会（以下「本部会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

(構成員)

第2条 本部会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 教務委員長（以下「委員長」という。）
- (2) 教務副委員長
- (3) 教養教育センター長
- (4) 学務課長
- (5) 学務課職員
- (6) その他委員長が必要と認める教職員

(部会長)

第3条 本部会に部会長を置き、前条第1項第1号に掲げる者をもって充てる。

(業務)

第4条 本部会は、次に定める業務を行う。

- (1) 数理・データサイエンス及びA I 教育に係る教育プログラムの企画・開発及び実施に関すること。
- (2) 数理・データサイエンス及びA I 教育に係る教育プログラムの自己点検・評価を実施し、その結果を公表すること。
- (3) その他必要な事項。

(事務)

第5条 本部会の事務は、学務課教務係において処理する。

(その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、本部会に関し必要な事項は、部会長が別に定める。

付 則

この要綱は、令和5年4月1日から施行する。

尾道市立大学 数理・データサイエンス・A I 教育プログラム専門部会設置要綱

令和5年4月1日

(趣旨)

第1条 尾道市立大学（以下「本学」という。）は、数理・データサイエンス・A I 教育プログラムに関して企画・開発等を行うために、教務委員会内に設置する数理・データサイエンス・A I 教育プログラム専門部会（以下「本部会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

(構成員)

第2条 本部会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 教務委員長（以下「委員長」という。）
- (2) 教務副委員長
- (3) 教養教育センター長
- (4) 学務課長
- (5) 学務課職員
- (6) その他委員長が必要と認める教職員

(部会長)

第3条 本部会に部会長を置き、前条第1項第1号に掲げる者をもって充てる。

(業務)

第4条 本部会は、次に定める業務を行う。

- (1) 数理・データサイエンス及びA I 教育に係る教育プログラムの企画・開発及び実施に関すること。
- (2) 数理・データサイエンス及びA I 教育に係る教育プログラムの自己点検・評価を実施し、その結果を公表すること。
- (3) その他必要な事項。

(事務)

第5条 本部会の事務は、学務課教務係において処理する。

(その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、本部会に関し必要な事項は、部会長が別に定める。

付 則

この要綱は、令和5年4月1日から施行する。

大学等名	尾道市立大学	申請レベル	リテラシーレベル
教育プログラム名	尾道市立大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム	申請年度	令和6年度

【プログラムの目的】

大学での学修に加えて、今後の社会生活で必要となる、数理・データサイエンス・AIの基礎について学ぶ。

【身につけられる能力】

「芸術文化学部」

- ・データ・AI活用領域の広がりを理解し、データ・AIを活用する価値を説明することができる。
- ・文献や現象を読み解き、それらの関係を分析・考察し表現することができる。
- ・データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理について説明することができる。

「経済情報学部」

- ・社会で活用されているデータを知り、統計学を学ぶ意義を説明できる。
- ・記述統計の考え方や基本的な手法を利用し、データを読み、データを説明し、適切に扱うことができる。
- ・平易な例について、実際に手を動かして計算できる。
- ・基本的な確率の計算ができる。
- ・デジタル化技術について説明できる。
- ・人工知能などのデジタルデータを活用する新たな技術について説明できる。
- ・デジタル技術やそれを活用する新技術により社会がどのように変化したか説明できる。
- ・これまでの社会の変化を踏まえ、今後の社会変化の予想を述べることができる。

【科目構成および修了要件】

「芸術文化学部」

教養教育科目「数理・データサイエンス・AI入門」（1年後期・2単位）を修得すること

「経済情報学部」

専門教育科目「統計学1」（1年後期・2単位）および専門教育科目「マルチメディア論」（2年前期・2単位）の計4単位を修得すること

【実施体制】

令和5年度、教務委員会内に数理・データサイエンス・AI教育プログラム専門部会を設置した。部会には教務委員長、教務副委員長、教養教育センター長および経済情報学部から情報教育に関わる教員が参画している。部会では教育プログラムの企画・開発及び実施に関すること、教育プログラムの自己点検・評価に関することを実施する予定である。